

四日市版コミュニティスクール報告書（令和4年度総括）

四日市市立神前小学校

校長 山中 誠

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

神前小学校の学校づくりビジョンの重点目標の一つに「地域に学ぶ・人とつながる取組」があります。地域とともにある学校づくりや地域人材と出会う取り組みの推進のためにコミュニティかんざき運営委員の皆様を中心に多くの地域の方に学校とのかかわりを持っていただいています。まさに「地域立」の学校づくり推進をコミュニティかんざきの活動の中心としています。

本校では、運営委員で構成する「運営協議会」に加えて、例年「コミュニティかんざき拡大運営委員会（コミュニティ委員と自治会関係者等の地域の方々で構成）」を年3回程度開催して教育懇談会を実施してきました。今年度も新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から拡大運営委員会の開催は見送りました。代わりに、運営協議会を6回実施し、その中で、学力調査の結果や学校アンケートの分析結果を報告し、学校の取組についてご意見をいただくとともに、地域における児童の様子を交流し、地域側から見て何が必要な取り組みになるか意見交流をしていただきました。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

・地域の教育力を生かした特色ある教育活動についての実践事例

地域のつながりを大切にした教育活動が推進していけるよう、コミュニティかんざき運営委員さんをはじめ多くの地域の方にゲストティーチャーとして支援していただきました。

5年生「米作り」の取組は、地域の方と出会う取り組みの中でも特に重点を置く教育活動です。なぜなら地域の方の協力が無ければできない取り組みだからです。今年も苗づくり・田植え・稲刈り等において、コミュニティかんざき運営委員の方々にお手伝いいただきました。今年は新型コロナウイルス感染拡大により実施してこなかった餅つきを予防対策を十分に講じながら実施しました。また、地域の老人会の方を中心に1年・2年・特別支援学級の野菜作り・さつまいもづくりでもご支援いただきました。このように教育活動が円滑に行われるようたくさんの地域の方々に支援していただいています。



また、「人と出会い・地域の人から学ぶ」をテーマに、多くの地域の方と出会う機会を設けました。

2年生では、「地域の伝統文化である獅子舞について学ぶ」をテーマに、地域の伝統や文化についてふれることができ、大切に引き継いでいきたいという思いを持つことができました。

3年生では、「職業に触れる」をテーマに保護者を中心に保護者ご自身の職業の紹介やその仕事にかける思いを伝えていただきました。

4年生では、神前地区同推協の方を招き、人権カルタを通して、その制作や活用に対する思いを語っていただきました。

6年生では、神前の町や四日市市を良くしていくために様々な活動をされている方をお招きしてその生き方に学びました。



・環境整備作業を年間通して行い、教育活動を側面から支える活動を行う事例

6月・7月・10月・12月に「環境ボランティア」と題して、コミュニティかんどぎ主催で除草作業や校舎内外の清掃活動を今年度も行っていただきました。これらの日以外にも委員の方を中心に樹木の剪定作業や除草作業を行ってもらっています。また、仙寿会（神前地区老人会）の方たち年間2回、校舎周りの除草作業をしてくださっています。

こうした活動をしてくださる運営委員の方や地域の方、保護者の方がみえることに子どもたちが気づき、またその方のお話を聞いたりしながら、こうした活動に対して感謝の思いを子どもたち智の姿が多くみられました。コミュニティかんどぎ運営委員の方からは『先生には子どもたちに向き合う時間をより多く作って欲しい』という思いで、学校のプール周りや運動場の除草作業を行っている」といった声をたくさんいただいています。

また、子どもの安全を確保するため、仙寿会の方たちに下校時間をお知らせして下校時の見守りに協力をしていただいています。



(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

・学校づくりビジョンの推進

今年度もコミュニティかんどぎ運営委員や地域の方に協力をいただき、「人と出会い・地域の人から学ぶ」をテーマに取り組みを進めることができました。地域の方から学んだことを全校のなかまに伝えようと毎学期の始業式や終業式で「全校で語ろう会」を実施したり、自分たちが学んだ人権学習について発表し合ったりしました。このような子どもの姿をコミュニティかんどぎの運営委員の皆様にご覧いただきました。運営委

員の方からは、仲間の発表を聞き、そこで感じた自分の思いを全校児童の前で堂々と話す児童の姿をみて、自分の思いや考えを伝える力が育っていると評価をいただきました。また、学校保護者アンケートの「自分の思いや考えを伝える力が育っていますか」の項目では、昨年度よりポイントの上昇がみられ、本校の取り組みの成果が確認できました。



・地域活動と児童の橋渡しを行う。

神前地区には地区運動会・文化祭・里山体験・卒業記念植樹・冬のウィンターウォークラリー（地域めぐり）・同推協のつどいなど、児童が参加しやすいように企画されている行事がたくさんあります。今年度も、コロナ禍の中で、多くの地区行事が実施されず、児童と地域のかかわりも減少しました。しかし、このような中でもコミュニティかんざき運営委員の方が「地域に学ぶ・人とつながる」視点で、児童とのかかわり方を協議してくださり、上記に述べたように各学年が幾度も地域の方とのかかわり、つながることができる場を作ってくださいました。まさに「地域立」の学校といえます。

3 今後に向けて

課題に対する改善の方向性や今後の展望

これまでの取組により、地域と学校の双方が協力し合う関係が確立しており、地域から学校への支援だけでなく、学校からも地域（自治会活動や同推協活動に児童が参加）に発信する取り組みも少しずつ活発になってきています。「コミュニティかんざき」の活動の方向性については、これまで同様に児童の活動の支援を中心に今までの活動の継続・発展と運営協議会においても確認されました。

コミュニティかんざき運営委員の方の教育活動を支援してくださる姿を見て、保護者の中にも学校行事に協力してくださる方やボランティア活動に参加してくださる方が増えてきています。また、児童が卒業したのちも地域協力者として小学校にかかわりを持ち続けてくださる方も少なくありません。児童を中心にして、保護者や地域の方のかかわりの輪が大きくなってきています。

まだ、コロナ禍であるために多くの行事が地域や保護者の皆様に公開できない状況にあります。より児童の様子を知っていただくために、学校だより・ホームページでの発信や home&school などを活用した事前の呼びかけをさらに充実していきたいと考えています。